

下肢閉塞性動脈疾患における低侵襲治療がもたらす患者ストレスの低減効果と看護業務改善に対する検討に関する研究

1.研究の対象

下肢閉塞性動脈硬化症（Lower Extremity Artery Disease；LEAD）に対して血管内治療（Endovascular Treatment; EVT）（足の血管を広げるカテーテル手術）を受けられた方

2.研究目的と方法

目的：総大腿動脈アプローチと比較して Trans ankle intervention (TAI) Trans radial intervention (TRI) Trans distal radial intervention (TdRI) 術後における定期的な創部チェック、長時間安静に伴う疼痛管理、食事介助、排泄介助などの患者、看護師双方のストレス改善、業務軽減効果の検討

方法：2024年6月1日以降に EVT（足の血管を広げるカテーテル手術）を実施した患者全例に対して NRS（10段階評価）を用いたストレス評価 アンケートを実施する。アンケート実施までに、患者には TFA、TAI の治療方法を事前に説明した上でアンケートに回答頂く。また看護師側にも NRS を用いたストレス評価アンケートを実施する。アンケート内容は、「術中疼痛の評価」、「術後疼痛の評価」、「術後の安静度の辛さ」、「食事の困難の程度」、「排便の困難の程度」、「睡眠の困難の程度」、「翌日の歩行の困難の程度」、「治療の満足度に関して」の8項目。看護側のアンケートとして、「排泄ケアの評価」、「食事ケアの評価」、「疼痛ケアの評価」、「穿刺部ケアの評価」、「術後のコール対応の評価」、「術後合併症・トラブル対応」、「今回のアプローチで仕事量は減ったか」の7項目。

術後1日目から2週間前後にアンケート調査を行う。

3.研究に用いる試料・情報の種類

【治療時点での患者背景】

- ① 患者基本情報：年齢、性別、患側（左右）、身長、体重、歩行状況、症状（Rutherford分類）、背景疾患（高血圧、糖尿病、脂質異常症、維持透析、冠動脈疾患、脳血管疾患、慢性心不全、心房細動、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、喫煙歴、ABI値）
- ② 血液検査結果：血清クレアチニン、アルブミン、ヘモグロビン、血小板数、ヘモグロビンA1c、LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪
- ③ 投薬内容：抗血栓薬、プロトンポンプ阻害薬、スタチン、エゼチミブ、PCSK9阻害薬、インスリン、インスリン以外の糖尿病治療薬

4.お問い合わせ先

名前、住所等の個人を直接特定する情報については厳重に管理し、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人を特定できない形で行います。この文書は、研究期間中、京都田辺中央病院ホームページ上に掲載しています。将来、この研究の計画を変更する場合や、収集した情報を新たな研究に利用する場合は、倫理審査委員会の承認と、研究機関の長の許可を受けて実施します。その際も、個別にお知らせしない場合は、同ページに公開いたします。

【当院の問合せ窓口】 医療法人社団石鎚会 京都田辺中央病院
循環器内科 杉本 健
TEL 0774-63-1111

-----以上